

川島地区 CS 小中学校共通学校評価アンケート【教職員】分析

川島小学校 18 人中 18 人回答 回答率 100 % 20 項目

肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合が高い 5項目

- 問 12 学校では、児童や保護者の相談にしていねいに対応している。 100 %
- 問 14 学校では、交通指導や災害時の安全行動(避難訓練など)の指導をしている。 100 %
- 問 9 学校では、授業や行事を工夫して児童の力が伸びるように指導している。 94.4%
- 問 10 学校では、ペア学習や発表の機会をつくり表現力が育つように指導している。 94.4%
- 問 11 学校では、人権を尊重し、いじめや差別を許さない態度を育てている。 94.4%

肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合が低い 5項目

- 問 6 子どもは、服装やスクールマナーを守ることができている。 55.6%
- 問 7 子どもは、チャイムの合図や時間を守り、時間を大切にしている。 66.7%
- 問 3 子どもは、生命を大切にし、自分も周りの人のことも大切にすることができている。 66.7%
- 問 8 子どもは、交通事故や災害時に正しい判断や行動ができる力がある。 66.7%
- 問 2 子どもは、自分の考えや意見を伝えることができている。 72 %。 72.2%

【考察】

- 問 12 の「学校では、児童や保護者の相談にしていねいに対応している。」については、100%の肯定群である。保護者、地域との日常的な連絡や情報交換（問題が生じた時だけでなく、何もない時に日常的な連絡を大切にしている）ができている証である。しかし、保護者の「学校は、保護者や子どもが相談しやすい環境づくりに努力している。」についての肯定群が 78.0%であり、学校の取組と保護者の実態には隔たりがある。日々、保護者や地域との協働体制の強化のために、積極的な情報収集、情報交換、情報発信や、そのための手段の工夫をし、保護者や地域等から信頼される学校運営に努めていく。
- 問 14 の「学校では、交通指導や災害時の安全行動(避難訓練など)の指導をしている。」では 100 %の肯定群で、児童の「交通マナー（並進しない、一旦停止など）を守っている。」でも 88.0 %が肯定群である、学校の安全指導やマナー・ルール徹底が、児童の安全行動につながり、今年度の登下校中の大きなけがや事故が皆無となっている。そのことは、保護者や地域方々による環境整備や見守り活動も大きく寄与している。今後も、けがや事故の防止に向けて、保護者や地域とともに通学路危険箇所の把握とその改善を図り、児童の命や安全を守り通す危機管理体制の更なる強化を図っていく。
- 問 9 の「学校では、授業や行事を工夫して児童の力が伸びるように指導している。」については、肯定群 94.4 %だが、児童の「授業や行事など発言の場面で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している。」については肯定群 60.2 %、保護者の「学校は、確かな学力が身につくように努力している。」についての肯定群は 87.2%であり、児童の実態や保護者の意識と教師の指導に差異がある。否定群の 39.8 %の児童につい

ては、今後も継続して学力向上の最重点課題として、学習形態や指導方法を見直す。また、どのように表現すれば、相手に対して自分の考えが伝わるのかについてのスキルの向上を図るための研修と授業改善に努めていく。

○問 10「**学校では、ペア学習や発表の機会をつくり表現力が育つように指導している。**」では、肯定群が 94.4 %であり、「令和の日本型学校教育」の構築を目指した、学び方の変容にともなった結果の表れであり、上記の問 9 にも大いに関連する項目である。児童の「**友達と協力するのは楽しい。**」でも肯定群が 94.7 %あり、学びに対して友達と協働しながら深め合うことへの抵抗感が少ない児童が多いと考えられる。協働で問題解決に当たることで、今後も児童の思考力と表現力を高めていく。

○問 11「**学校は人権を尊重し、いじめや差別を許さない態度を育てている。**」については、肯定群が 94.4 %と高く、児童の「**いじめはどんな理由があってもいけないことだ。**」の項目も 97.0 %と非常に高い。しかし保護者の「**学校は豊かな心と人権尊重の心が育つよう努めている**」では、肯定群が 81.7 %とやや差異がある。また、今年度は市人権教育研究大会の指定校として、全校で人権教育について研究を深め邁進してきた。保護者との差異は、知識として人権教育を学んでいるが、自分事として行動化にまで至っていないことに要因があると考えられる。今後も SWPBS を中心とした行動支援を行い、学校全体をあげて人権教育に取り組んでいく。

○問 6 の「**子どもは、服装やスクールマナーを守ることができている。**」では、55.6%の肯定群、問 7 の「**子どもは、チャイムの合図や時間を守り、時間を大切にしている。**」については 66.7%の肯定群で、保護者の「**私の子どもは、時間やルールを守ることができている。**」でも 73.4%の肯定群と厳しい評価になっている。一方、児童は「**チャイムの合図や時間を守っている。**」では 89.4%（昨年度は 84.6%）の肯定群であり、教職員や保護者の指導と、児童の実態に差異がある。これは、教職員が指導（チャレンジプロジェクト）のねらいに応じて児童の実態をより丁寧に把握し、「徹底した指導」に努めている証であると考ええる。確実な学力向上を図るためには、学習規律の基本となる「時間やルールを守る態度」は不可欠であり、100 %達成を目指していかなければならないと考える。今後も、『かわしまっ子チャレンジプロジェクト』として、全校で指導の徹底を図る。

○問 3 の「**子どもは、生命を大切にし、自分も周りの人のことも大切にすることができている。**」についての肯定群が 66.7%である。児童の実態において、自分の言動が友達を傷つけていることに気付かなかったり、自分の利益を優先して身勝手な行動をとることでトラブルになったりする場面が少なくない。そこで、日頃より児童一人一人の心に寄り添うとともに、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で重点的に指導を行っている。また、保護者とも連絡を密にして、児童等についての共通理解を図り、人権教育の充実、いじめ等防止の徹底、相談体制の充実につなげていく。